



大石款  
完

特別  
14  
696  
193





193  
696  
193

○大石記

上卷



元禄十四己三月

勅使系河涉地

勅使小川坊城大納言

院使庭田前中納言

女院使水江源守相

言家

吉良上野守

四子或原

長官信外

吉良上野守

三月十日於涉城勅使系河涉地  
御使小川坊城大納言  
院使庭田前中納言  
女院使水江源守相  
言家  
吉良上野守  
四子或原  
長官信外  
吉良上野守  
三月十日於涉城勅使系河涉地  
御使小川坊城大納言  
院使庭田前中納言  
女院使水江源守相  
言家  
吉良上野守  
四子或原  
長官信外  
吉良上野守



可



















至元二十一年三月十九日

丁巳三月十九日 漢之長春也 同日之漢也 陽春也 漢書

二月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

三月廿九日 漢書 漢書 漢書

丁巳三月十九日 漢之長春也

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

○ 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局

抄平安縣書局 抄平安縣書局 抄平安縣書局







在惠... 中... 後... 一...

一平十二月十日... 家... 内...

以芝... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...

宗... 國... 難...

此... 宗... 國...























昭昭雅士人獨之志と必蒙被燒香行も年依し居申り申之  
懐中合口一瞬の暇あり 一昨少くも首のふふ之度あり  
たふふふと懐中申す也 本在國教の漢上之文也

元禄十一年十二月十日の面、名を申すも色本在國教の  
之の神事板書ありと教合申す七人死と塗の長守僅に奉告  
亡君を自ら申す去る年十二月十日の君を申すも又傳り  
やなると細く細く、その君は世に後と上社ありといふ事  
る哉とよめり企てて申すも、此の事も、  
その君の長とて君と稱すも、中々申す、與共戴天  
大後非忘心、同じて地り、好まらぬの又、此の事も、  
物々纏り、申すも、下とて、  
能く抱き、申すも、  
信して、  
一日

三秋と思ひ、  
二日三、  
中々、  
推免、  
之を、  
答下、  
懐中、

丁卯別首と院長、  
少者、  
女、  
首、







地味不白端り流るに坊主病元ハ五月身付外ハ送る伯老有也  
之類ハ流るに後刀帳有流る也 其後四時ハ家士流る  
之類ハ流るに坊主病元ハ送る伯老有也

一上林及之付之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
家事ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也

一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也

一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也

一白子方一腰 一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也

一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也

一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也

一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也  
一引取之由ハ坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也  
坊主病元ハ送る伯老有也 坊主病元ハ送る伯老有也











細川氏守綱判 五十四万石

杉平陽守守定直 十石

毛利甲斐守綱元 長門守

水野盛重忠文 三列

細川氏 喜院 底初と敷たし之を是る物布給庸園切後世に古

一法之極屏地立祀難たし之を包行暇自キ其故の幕法至

之の之を庸園に之を之の月取血にれは之を又初と振血に

家老千五百石 大石内務丹 三石

志乃丸記者大初り後村上之也 志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也 志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也 志乃丸記者大初り後村上之也

清目付 義事十石

此後善 名水内記

杉平陽守守定直

毛利甲斐守綱元

水野盛重忠文

細川氏

家老千五百石

大石内務丹

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者大初り後村上之也

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者

志乃丸記者







右書付町を以て保田新前より秋之仙守守海へ播磨丹後と列産

田原新前十文 大石新子代 日三男 日本新前 原守新前十文 行世新前十文

原守新前十文 同古一男 平定新前 原守新前 忠為新前十文 在田新前十文

原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文

原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文

原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文

原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文

原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文

原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文 原守新前十文

一山田十系十文 孝十系十文 九系十文 八系十文 七系十文 六系十文 五系十文 四系十文 三系十文 二系十文 一系十文

一山田十系十文 孝十系十文 九系十文 八系十文 七系十文 六系十文 五系十文 四系十文 三系十文 二系十文 一系十文

一田原十系十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又仲光新信十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又翻要新信十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又以串新信十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又隨露新信十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又窓空工新信十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又破了十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又寛徳新信十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又法冬十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又上樹十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又四邊十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又上樹十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又四邊十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又上樹十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文

又四邊十文 忠誠院又空淨新居十文 忠誠院又空淨新居十文



又道五劍信士 吉長光忠 又露自劍信士 中村初和 正辰  
 又水流劍信士 兼生もく 又觀祖劍信士 石坂務五雄  
 又每一劍信士 本居信志雄 又雷石劍信士 名譽信友信

右為と隠修々 右邊も兼貞 又袖拂劍信士 尾崎信孝 常中樹

又燬鍊劍信士 金橋信孝 武幸 又可仁劍信士 松本十兵衛 次房

又性春劍信士 森唯七 隆重 又量雲霞信士 曾新為武光

又者梅劍信士 村松孝氣 秀西 又補天劍信士 前住信如 宗房

又同彌劍信士 小幡孝幸 初富 又摸唯劍信士 石新六 光風

又大及劍信士 原清孝 正辰 又伏藏劍信士 石新六 光興

又猷跳劍信士 島田孝行 尚 又清元劍信士 村松孝文 尚貞

又擲振劍信士 兼生もく 則休 又鄉音機劍信士 兼生もく 常成

又利教劍信士 兼生もく 則休 又常中水劍信士 兼生もく 宗利

又珊瑚劍信士 兼生もく 則休 又同彌劍信士 石新六 光風

君の爲に流とむくよんくん此身にありてかぬるやあつる首より  
 或後の子孫に思ひあは一みの下に功をいけしもの業とありたれ  
 に毎命令と終りも及一と先の父もあつるかたは  
 父母兄弟又姉思ひも名利の癖霧を拂く唯一節に  
 身土の曲らぬまは念りとの心の後には  
 不滅の月や得度佛を疑ふる一とや初七と彼も此  
 りつたりしり 侍りしもの形

于時元禄十六未如月十日  
 一向宗の戒名釋宗貞清信士 俗名 間新木

本高直の良雄 其先出ツ鎮守府將軍藤原孝那  
 世領下近江ノ粟大郡大石庄ニ因テ氏トス  
 新 和漢氏家名數ニ出ス















同族を殺すは罪なり

吾等のいふことわりは、殺すにせよ、世にや、さるや、さるや、

人の世の道、己の心、さるや、さるや、さるや、さるや、

ありひき、我々の道、あり、さるや、さるや、さるや、

山ささぐ、カとも、あり、あり、あり、あり、

菅野和助

吾等のいふことわりは、殺すにせよ、世にや、さるや、

極つる

あり、あり、

あり、あり、

あり、あり、

あり、あり、

早八人

ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、ね、

上様の扱ふ所、あり、あり、あり、あり、

その名、その名、その名、その名、その名、その名、

八景

少将夜首、左兵衛落涙、本庄大乱、高分明屋鋪

野村普所、衝轉諸説

泉岳寺晚鐘、遠方彈正

去歲、木子、冬、十五日、故、少府、監、赤穂、城主、浅林、長経、

其志、雖、逐、其、生、不、全、天、乎、命、宇、果、晚、運、乎、難



堪哀惜有感一而林參小酒  
閨門突入無還去  
炭啞貌衰迨後讓  
精誠貫日死何悔  
四十六人齋仗又

易水風寒壯士情  
雄歌淚滴挽田橫  
義氣拔山生太輕  
上夫無意佐忠貞

京保十四日酉年八月十九日寫之

成教九六板

小寺  
玉泉文庫





